



天塩署へバックパネルを寄贈



▲バックパネルの前で横山会長(左)から目録を受け取る小関署長(右)

天塩地区警察官友の会(横山秀会長)が天塩警察署に広報用バックパネルを寄贈し、9月18日に贈呈式が行われました。天塩警察署では、これまで旭川方面本部からバックパネルを借りており、その都度片道3時間をかけて受け取りに行っていたことから、小関貴史署長は「大変ありがたい」と感謝を伝えました。バックパネルには天塩署の管轄地域である遠別町・天塩町・幌延町・豊富町の Kantorii サインがデザインされており、今後は天塩署で行われる感謝状の贈呈式や表彰状の伝達式などに活用されます。



絵手紙教室



▲絵手紙教室の様子

9月18日、天塩郵便局・雄信内郵便局の主催による「絵手紙教室」が社会福祉会館で開催され、町民15名が参加しました。日本絵手紙協会の公認講師・箕浦尚美氏が「ヘタでいいヘタがいい」「心は王様 手は家来」「心と心のキャッチボール」といった絵手紙の心得を説明し、筆で線を引く練習をした後、ハガキに野菜や果物などを描きました。参加者らは思い通りに描けないことも楽しみながら描き、味わい深い作品の数々が完成しました。絵手紙は町民文化祭への展示を経て、それぞれの宛先へと届けられます。



桂米助・立川志の春落語会



▲桂米助氏(右)、立川志の春氏(左上)、立川生九郎氏(左下)

9月24日、町教育委員会主催による「桂米助・立川志の春落語会」が社会福祉会館で開催され、約80名が来場しました。3名の落語家が登壇し、立川生九郎氏は間抜けな泥棒が森に潜んで追いはぎを試みる「鈴ヶ森」を、桂米助氏は隠居から聞いた面白い冗談話を誰かに喋りたいがうまくいかない「新聞記事」を、立川志の春氏は知識がないまま茶の湯を始めた結果大変なことになってしまった「茶の湯」を演じ、体の動きを巧みに使った落語ならではの会話表現と軽妙な語り口で、会場は大きな笑いに包まれました。



お菓子作り体験も テトテプラス



▲ブルーベリーレアチーズ作りの様子

9月20日、サニースペース(海岸通4)で毎月恒例のコミュニティカフェ「Total+ (テトテプラス)」が開催されました。この日は稚内市上勇知のベーカリー「埜や(カヤニファーム)」をはじめ、マッサージ店やキッチンカーが出店。午後からはヨーグルト飲料を使ったブルーベリーレアチーズ作りが行われ、小学生5名が火を使わずに作れる簡単なお菓子作りを体験しました。

テトテプラスはボランティアが運営しているカフェで、開催日や内容が決まると町内各所にポスターが掲示されます。おいしいドリンクやスイーツを楽しめますので、一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



赤い羽根チャリティPG交流会



▲プレーを楽しむ参加者ら

9月28日、天塩町社会福祉協議会主催の「赤い羽根チャリティパークゴルフ交流会」が町運動公園で開催され、町内外の愛好家や社協職員を含む約30名が参加し、腕前を競い合った。参加者らは強風が吹き荒れるなか3コース・27ホールを回り、ホールインワンを決めた人も。この交流会の参加費の一部は、町共同募金委員会に寄付されます。

【大会結果】《優勝》山口敏明さん、《準優勝》伊藤利光さん、《ニアピン賞》白田ツル子さん・畠山益直さん、《ホールインワン》渡辺英則さん・柏木信幸さん



「弁当の日」上映・講演会

あなたは子どもに何を遺せますか



▲上映会後に行われた安武監督による講演の様子

令和7年度北海道高等学校PTA連合会留萌支部主催による、食育をテーマとした映画「弁当の日」の上映会・特別講演会が9月27日、天塩高校体育館にて開催され、地域住民など50名が視聴しました。同映画は、2001年に香川県の小学校長が考案・提唱した、子どもたちが食事を作る経験を通じて成長や気づきを得て、家庭や地域社会のありかたを見つめ直す取り組みの過程を、ドキュメンタリー映像として製作し表現。上映後、監督を務めた安武信吾氏による講演では、子どもが台所に立つことから食育することや周囲への感謝、自己肯定など、映画に込めた意図や思いについて語りました。



母子寡婦会バス停サロン



▲続々と人が集まり、カレーやコーヒーなどを楽しんだ

10月7日、天塩バスターミナル(新栄通6丁目)で、天塩町母子寡婦会による「バス停サロン」が行われました。「バス停サロン」は今年9月に始まったイベントで、今回が2回目の開催です。現在未利用となっているバスターミナルの売店部分を活用し、1食につき10円が赤い羽根共同募金に寄付される「おもしろカレー」をはじめ、ドリンクやお菓子の販売を行い、会員を含め約50名が訪れました。

サロンは今後も継続して開催される予定で、次回の開催は11月4日(火)となっています。

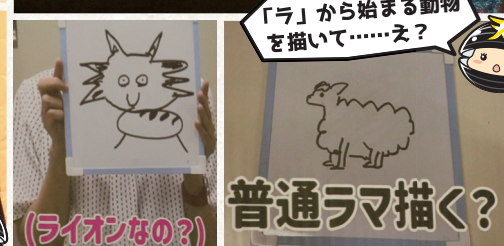


大先輩の講話を聴く天高生



▲講話を聴く天塩高校生

天塩高校では、魅力化推進施策の一環として多様な分野で活躍している同校卒業生を招き、自身の経験等について講演を行う「オークゼミ」を発足することとなり、10月3日、同校OBの津田廣喜さん(公益財団法人資本市場振興財団理事長)を講師に第1回目の記念講演会が同校体育館にて開催され、全校生徒、吉田町長、町議会議員など約100名が聴講。津田さんは、昭和42年同校を卒業し、東京大学法学部卒業後は大蔵省に入省、平成19年には財務事務次官を務めるなど国家財政のために奉職、退官後は早稲田大学教授を務められました。自身が高校在学時の思い出を語った後、「自分が燃焼できるものを見つけ人生の糧にしたい」と生徒にエールを贈りました。



▲河川公園での放水訓練



▲防火パレードの様子

同日の夜7時から、天塩町消防団による非常招集訓練が実施され、団員約30名が天塩支署に集合しました。団員らはホースの設置や接続、撤収の方法等を確認した後、河川公園に移動し放水訓練を行いました。

10月3日には、町内の商店や宿泊施設等の防火管理者で構成される「北留萌地区防火管理者連絡協議会天塩支部」の防火管理研修会が天塩支署で行われました。参加者は119番に通報した際の一般電話と携帯電話での違いを学んだほか、訓練の煙を充満させたテント内を歩く体験や消火器の取り扱い訓練を行いました。防火管理者としての意識を高めました。

空気が乾燥し火災が発生しやすい季節を迎え、町内各所で啓発活動や訓練などが行われました。9月30日、町認定こども園おひさまの園児らで構成される天塩町幼年消防クラブの防火歩行パレードが行われました。北留萌消防組合天塩支署を出発したパレード隊列は、指令広報車と「てしお仮面」を先頭に、音楽に合わせて旧駅前通りを行進。沿道に集まった保護者や近隣住民に女性消防団員らが啓発グッズを配布し、火の用心を呼びかけました。

防火パレードや訓練で火の用心

